

平成24年第2回羽村市議会（定例会） 一般質問通告項目一覧表

発言順	議席番号	議員氏名	質問項目	質問日
1人目	4番	富永訓正 (60分)	<p><b>1. 通学路の安全対策について</b></p> <p>(1)市として通学路の危険箇所を、どう把握し、どのような認識をしているか。</p> <p>(2)PTAでは毎年、子どもたちの安全を願い、通学路の安全点検を行い、改善要望を行ってきた。</p> <p>①主にどのような要望があったか。</p> <p>②その要望にどのように対応し、対策を実施してきたか。</p> <p>③改善要望がありながら、改善されない危険箇所があるとすれば、今後どうしていく考えか。</p> <p>(3)動物公園通りにある信号機・横断歩道の無い交差点（富士見平と富士見斎場側との間）では先日も、横断中の生徒と自動車による交通事故が発生した。警察に通報されることのない事故も多いと聞く。朝夕の通勤通学時間をはじめ、広く市民の方が道路を横断している現状を踏まえ、早急な安全対策が必要だが如何か。</p> <p>(4)そのほか、同様な危険なところがあるとすれば、どうしていく考えか。</p> <p>(5)ドライバー側の安全意識の向上も重要との観点から、市内を通行するドライバーへの安全意識の啓発について、どう考え進めていくか。</p> <p>(6)これまでも、地域社会の協力、連携のもと通学路の安全対策に取り組んできた。地域で考える安全対策として、市はどのように考えているか。</p> <p><b>2. 子どもたちの防犯対策について</b></p> <p>(1)子どもたちの安全確保について</p> <p>①警察、PTA、学校安全ボランティア組織等との連携により、子どもたちの安全確保にどのように取り組み、対策を行ってきたか。</p> <p>②今後の課題は。</p> <p>(2)子どもたちが危険に遭遇したり、困りごとがあるとき、安心して立ち寄れる拠点として、市民の方にご協力いただいている「子どもかけ込み110番の家」がある。ここへの子どものかけ込み数と、かけ込み内容の近年の状況は。</p> <p>(3)「子どもかけ込み110番の家」の増設、見直し、機能強化等への取り組みは。</p> <p><b>3. 災害廃棄物の受入れについて</b></p> <p>(1)西多摩衛生組合での災害廃棄物受入れ決定までの経緯について、市はどのように聞いているか。</p> <p>(2)本年4月1日に行われた羽村市、東京都、西多摩衛生組合における住民説明会にて、参加者からは、主にどのような意見・質疑応答がなされたか。</p>	6月7日

2 人目

12 番

石 居 尚 郎  
(60 分)

- (3) 災害廃棄物の焼却にあたり、その調査内容と結果・安全性を市としてどのように聞き、どう認識しているか。
- (4) 西多摩衛生組合での災害廃棄物の受入れと焼却開始時期の見通しを、市はどのように聞いているか。
- (5) 西多摩衛生組合での災害廃棄物の受入れ開始後、市としての継続的な安全確認・対策・広報等に対する考えを聞く。

#### 4. 高齢者が健康で安心して暮らせるまちへ

- (1) 地域会館におけるバリアフリー化の進捗状況と今後の計画を聞く。
- (2) 公園におけるバリアフリー化の進捗状況と今後の計画を聞く。
- (3) 公園での健康遊具設置の進捗状況と今後の計画を聞く。
- (4) リハビリ、筋肉トレーニング効果があるといわれている、足こぎ車椅子を、必要な方が活用できるよう推進してはどうか。
- (5) 笑いは健康の源。笑いは最高のコミュニケーションといわれている。笑うことで心が豊かになり、免疫機能は高まり、腹筋や顔の筋肉の強化にもなり介護予防としての役割も期待できるとされている。公式資格ではないが、「お笑い福祉士」の活用を検討してはどうか。

#### 1. 被害想定の見直しについて

##### — 災害から命とまちを守れ

- (1) 被害想定の見直しにより、西多摩地域及び羽村市ではどのように想定が変わったか。
- (2) 大地震等の災害時において、緊急車両が避難所や災害現場に円滑に向かえる環境整備が求められる。そのための緊急輸送道路等について質問する。
  - ① 市内における特定緊急輸送道路沿道の耐震化の進捗状況を把握しているか。
  - ② 羽村市役所通りなど第二次、第三次緊急輸送道路、また復旧優先道路など、主要幹線道路の沿道に対して、どのような配慮が必要と考えるか。
- (3) 避難所となる公立小中学校の安全対策について
  - ① 学校の校舎及び体育館の非構造部材の耐震検査は実施したか。
  - ② 学校の校舎及び体育館の非構造部材の安全対策を講じていく考えは。
- (4) 被害想定見直し後の水道事業の安全対策について聞く。

6 月 7 日

3 人目

6 番

大塚あかね  
(60 分)

- ①昭和 48 年設置の高区配水塔と昭和 55 年設置の低区配水塔の耐震性は。
  - ②耐用年数を越えた配水管の状況を聞く。また、現在の耐震適合率は何パーセントか。
  - (5) 近年、ゲリラ豪雨により多摩川の水位が急上昇することが増えてきている。また、小河内ダムの安全対策にも不安を感じている市民は多い。そこで多摩川水域における水害に対する被害想定について質問する。
    - ①小河内ダムの安全性に対する説明会を開催するよう、都に働きかけてはどうか。
    - ②羽村市として、洪水ハザードマップを公表する考えは。
  - (6) 本年度、危機管理課が新設された。その位置づけと役割をどう考えているか。
  - (7) 自治体、企業等との連携・協定の見直しについて
    - ①これまでの連携・協定はそれぞれいつなされたものか。早期に見直す考えは。
    - ②実効性のある災害応援協定となるよう、遠隔地とも締結していく考えは。
  - (8) 災害時の情報伝達手段について質問する。
    - ①災害用衛星電話の設置状況は。また、安定した自家発電機能は担保できているか。
    - ②帰宅困難者に対する、効果的な情報伝達手段の周知徹底は。
  - (9) 被害想定の見直しで、羽村市地域防災計画の早期策定を望むが、完成時期はいつか。
  - (10) 災害対策本部を、施設も含めて強化充実していくことについて
    - ①現在の対策本部の配置で被害想定の見直しに対応できると考えているか。
    - ②今後、強固な災害対策本部となる新たな防災センターの設置を検討してはどうか。
- 2. 本に親しみ、豊かな心を育もう**
- 一 創作童話コンクールの創設を**
- (1) 読書活動をさらに推進していくためにも、「創作童話コンクール」を創設し、開催することを提案したい。市の考えを聞く。

**1. 上下水道施設は大丈夫なのか**

- (1) 都市計画マスタープランと上下水道整備
  - ①西口土地区画整理地域は計画と合わせ雨水管きよの整備、老朽化した上下水道管の更新(布設替え)が行われるが、基盤整備が整っていない地域の上下水道管の更新(布設替え)、長寿命化対策、雨水管きよの整備は地区別構想との関係のなかでどのように進められていくのか。

6 月 7 日

- a. 対象施設の選定は地区別構想とあわせて行うのか。
  - b. 地区別構想と上下水道の老朽化対策はどのように位置づけられるのか。
  - ②老朽化対策は管路の老朽化の進行に間に合うのか。
    - a. 上水道の施設整備計画について何う。
    - b. 下水道の長寿命化計画について何う。
  - ③事業を円滑に推進するためにも、上下水道管の老朽化問題について、市民へ周知をし、認知度を深める必要があるのではないか。
  - (2)浸水対策はどのように図られているのか。
    - ①都市型浸水に対しての対策について何う。
    - ②緊急かつ効率的に浸水被害の軽減を図るための施策をたっているか。
    - ③被害の最小化を目指すために、自助を支える情報収集、提供等の促進は図られているのか。
      - a. 内水ハザードマップの作成、公表
      - b. 水害教育と情報発信の推進
  - (3)耐震対策についてあらためて何う。
    - ①大震災に対して、上下水道管の管路対策はどのように考えているか。
    - ②マンホール蓋の取替えはどのような計画で進めていくのか。
    - ③災害時のマンホールの浮上、埋め戻し部の地盤沈下に対し、直近の被害想定をもとに、改めて診断を行う必要があるのではないか。
  - (4)漏水、不明水対策はどのような状況か。
    - ①市内で不明水の多い区域の特定、路線の特定の現状と対策はどのように図られているのか。
    - ②漏水率削減のための対策はどのように図られているのか。
  - (5)経営健全化対策について
    - ①管路の老朽化に伴う更新、長寿命化対策、耐震化など、資本整備のための財源確保のためにも、今後、水道料金、下水道使用料の適正化は図られるのか。
    - ②上下水道及び、雨水管路施設の維持管理を効率化するひとつの方向として、包括的民間委託などの活用についての見解を何う。
- 2. 市立保育園民営化後、保育士はどこに配属されるのか**
- (1)民営化後の保育士の配属先について何う。
    - ①配属先としてどのような部署を考えているのか。
    - ②本人の適正や希望など、考慮されるのか。
    - ③O J Tなど研修を行う予定はあるのか。

**1. 危機管理への取り組み、強化にむけて**

## (1) 災害時相互応援協定について

- ①現在、どんな自治体や関係機関と災害相互応援協定を結んでいるか。
- ②協定の内容は、主にどのようなものとなっているか。
- ③災害が発生した場合、協定に基づく相互応援が円滑に行われるよう平常時からどのような連携や訓練を実施しているか。
- ④東京都がここで首都直下地震の被害想定の見直しを行ったが、これを受けて、協定内容の見直しや、新たな災害応援協定の締結が必要と考えるが、現時点でどのようなことを検討しているか。

## (2) 現行の地域防災計画 (20 年 3 月) を具体的にどのような点を見直していくのか。またスケジュールは。

**2. 今後の工業振興について**

## (1) 近年、市内工業系地域にあった企業の移転に伴い、工場と住居が混在する状況が発生している。調和のとれたまちづくりを推進する上での現状と課題について

- ①市としては、このような状況を、どうとらえているか。
- ②企業の移転に伴う市への影響を、どう考えているか。
- ③企業の移転防止対策については、どう考えているか。
- ④工業系地域の空き地対策については、どう考えているか。

## (2) 産業の活性化は市の発展に欠かせない重要な要素であるが、今後の産業振興に対する市の基本的な考えは。

**3. 学校教育にかかわる新しい取り組みについて**

## (1) 特別支援教育について現在、「特別支援教室モデル事業」の指定を受け、取り組みが行われているが今後の具体的な計画と見通しについて

- ①東京都特別支援教育推進計画第三次実施計画では「特別支援教室構想」がどのように示されているか。
- ②3年間の取り組みであるとのことだが、本年度の具体的な計画はどのようになっているか。
- ③特別支援構想では、在籍校、学級における支援体制を整備する事が重要になってくるが、通常の学級を担任する教員への研修はどのように進める考えか。

## (2) 羽村市の食育の現状と課題について

- ①市内の各小・中学校の現状はどのようになっているか。また、栄養教諭の配置に当たって配慮したことは何か。

5 人目

3 番

中 嶋 勝  
(60 分)

- ②栄養教諭の配置に当たって、その活用について具体的にはどのような計画があるか。
- (3) 地域と連携した教育活動について
  - ①昨年度から中学生が参加している防災訓練について、今年度はどのような形でレベルアップを図るか。
  - ②地域との連携を図った新しい取り組みにはどのようなものがあるか。

### 1. 自助・共助・公助+「近助」について

- (1) 基本となる自助への市民の取り組みをどうサポートするか。
- (2) 共に助け合う共助の役割を果たす自主防災組織の機能に差がある現状と課題と対策は。
- (3) さらなる防災教育の実施と合わせ、HUG（避難所運営ゲーム）の早期実施を。
- (4) 今後、より実効性のある防災訓練、避難訓練にどう取り組む計画か。
  - ①今年の計画は
  - ②来年以降の計画は
- (5) 共助とともに隣近所で助け合う「近助」の要となる災害時要援護者対策の具体的実施方法を聞く。
- (6) スピーディーな対応が重要となる避難所における初期段階の組織体制をどう整えるか。
- (7) 市内3ヶ所、避難所10ヶ所の防災備蓄倉庫のさらなる機能充実を。

### 2. 「花と水のまつり」について

- (1) 今年の「花と水のまつり」について前半と後半それぞれ聞く。
  - ①来場者数は約何人で前回と比べてどうだったか。
  - ②好評だった点と不評だった点は。
  - ③会場となる近隣住民への配慮と協力体制は。
  - ④羽村堰を管轄する東京都との連携は。
- (2) 観光振興、地域振興の観点から市はこのイベントをどう捉え、どのような将来像を持っているのか考えを聞く。
- (3) 来年以降に向けての取り組みについて
  - ①最寄り駅から会場までの人の導線整備と観光案内の充実を。
  - ②チューリップ会場の入口である間坂交差点付近に大型案内標識の設置を。
  - ③会場だけでなく周辺も含めた散策できる観光ルートの整備と案内を。
  - ④来場者と知名度のアップを図るためにイベント等何か考えているか。
  - ⑤イベントを陰で支えていただける大切なボランティアの方々の拡充を。

6 月 8 日

6 人目

7 番

西 川 美佐保  
(60 分)

### 3. 今夏の電力不足と暑さ対策について

- (1) 公共施設における、今夏の節電・省エネの目標等取り組みについて聞く。
- (2) 市民の節電への取り組みに対する意識啓発について聞く。
- (3) 昨年行われた土日稼働等、市内企業の今夏の節電対策はどう聞いているか。
- (4) それら節電に伴う暑さ対策について
  - ① 特に暑さ対策が必要とされる高齢者への対応は。
  - ② 同様のことが言える幼児への対策としてネッククーラー等の支給を。
  - ③ 外出時、熱中症対策にもなる身体をクールダウンできる休憩場所の設置推進を。
  - ④ 建物内の温度が下がると言われるグリーンカーテンのさらなる普及促進を。

### 1. 生きがいと健康人口を増やす予防対策について

- (1) 生活習慣病の予防対策について  
糖尿病などの生活習慣病予防のための取り組みは、確実に効果を出すためのシステムが必要と考えるが、今後具体的にどのように推進しようとしているのか。
- (2) 高齢者の肺炎球菌ワクチンの助成の金額、時期はいつから実施予定か。
- (3) 市民の健康づくりを推進するため、市などが行うセミナーや運動に参加することで、スタンプを押し、一杯になったら活用できるポイント制度を年間の取り組みとして考えてはどうか。
- (4) 介護ボランティア制度を創設し、元気で生きがいのある仕組みづくりをしてはどうか。
- (5) うつ病の予防対策について
  - ① うつ病に効果があるという認知行動療法の療法士を育成し、市の相談業務にあたる人などへ広げるなど相談体制の充実を図ってはどうか。
  - ② 心の健康状況やストレスをパソコンや携帯電話でチェックできるシステム「こころの体温計」を導入してはどうか。

### 2. 孤立死対策について

- (1) 孤立死についての取り組みについて
  - ① これまでの取り組みはどうか。
  - ② 課題は何か。
- (2) 孤立死対策を図るため、地域ぐるみの見守り支援ネットとして、1人を多くの人で見守る体制、またはお互いを見守り合う体制づくりを推進してはどうか。

6 月 8 日

7人目

8番

橋本弘山  
(60分)

- (3)見守りを、牛乳配達、宅配業者などさらに民間に広げ、提携してはどうか。
- (4)電気、ガス、水道などのインフラとの連携強化を図り、市の担当部局に情報を一元化できる体制の構築について、市の考えを伺う。
- (5)孤立化を防ぐための地域サロン活動をマミーショッピングなどの空き店舗も含め推進してはどうか。
- (6)多くの一人暮らし高齢者が、友人や生涯の伴侶を持てる機会を創出するため、定期的に「出会いの場」を開催してはどうか。

### 3. 地産地消の再生可能エネルギーの推進について

- (1)国土交通省は「庁舎、都市公園、学校など公共施設に再生可能エネルギー設備」を導入する自治体の支援をする方針を発表しているが、エネルギーの地産地消を効果的に推進するため、そこに参加してはどうか。
- (2)市内で太陽光と蓄電池をセットにした取り組みが大切と考えるが、今後庁舎やスポーツセンターなどの耐震改修時など、エスコ事業も含め、太陽光発電や蓄電施設などを併せて検討してはどうか。
- (3)「電力の見える化」を推進するため、学校・庁舎を含む全ての公共施設の電源に家電別や建物別の消費電力が分かるモニター装置を設置してはどうか。
- (4)電力の自給自足や地産地消によるまちづくりを推進するため、市としてスマートシティ構想の構築など、どのように考えているのか。
- (5)市内企業の今後の再生可能エネルギー対策への準備について把握しているのか。また、企業の発電、充電、蓄電対策で市として支援できると考えていることはあるか。

### 1. 危機管理体制について

- (1) Jアラート（全国瞬時警報システム）について
  - ①どのような災害時にこのシステムは有効に活用されるのか。
  - ②今回、仮に北朝鮮のミサイルが発射された場合、羽村市においてはこのJアラートの運用にどのような態勢で対応し、市民にどのような情報伝達が行なわれる計画であったか。また、国からの情報伝達体制はどうであったか。
  - ③今後、このシステムをどのように市民に周知していくのか。
- (2)羽村市国民保護計画について
  - ①どのような事態を想定しているか。

6月8日



- ②仮に武力攻撃があった場合、羽村市国民保護計画に基づき、どのような措置及び対応が可能なのか。
  - ③この計画に基づいた訓練を考えたことはあるか。
  - (3)防災会議について
    - ①そのメンバーの構成は。
    - ②その会議では、地域防災計画の見直しを行なうとのことであるが、具体的にどういった内容を検討するのか。
  - (4)新設された危機管理課について
    - ①設置の目的、その役割は何か。
    - ②各課との連携をどう図っていくのか。
- 2. 最近の子どもたちを取り巻く様々な課題について**
- (1)小1プロブレムについて
    - ①現在の市内小学校の一年生の現況はどうか。
    - ②現在までの幼・保・小の連携の状況は。
    - ③就学前教育と小学校教育の円滑な接続を図るための取り組みは。
  - (2)通学路の安全対策について
    - ①過去に議会で取り上げられた車の通行量の多い危険な通学路の現況は。
    - ②最近の暴走車事故を踏まえ、通学路の点検を行なう必要があると考えるがいかがか。
    - ③学童保育児の下校時の安全対策はとられているか。
    - ④不審者情報とその対応は。
  - (3)子どもたちの体力低下について
    - ①最近の全国の体力調査のデータを把握しているか。
    - ②羽村市の子どもたちの数値は全国平均と比較してどうか。
    - ③文部科学省の調査によると、昭和60年ごろをピークにずっと体力水準が低下傾向であるという報告があるが、その原因をどのように分析しているか。
    - ④体力向上へ現在と今後の取り組みは。

8人目

2番

**富 松 崇**  
(40分)

**1. 羽村市の情報発信について**

- (1)現在、市の情報発信はどのようなツールを使っているのか。
- (2)現在の情報発信ツールでの問題点・不便だと感じるような事は、どのようなことが考えられるか。
- (3)第五次長期総合計画にある「インターネットを活用したソーシャルネットワークづくり」とは、どのような場を提供する考えなのか。

6月8日

9 人目

17 番

**門 間 淑 子**  
(60 分)

- (4)市のホームページにおいて、更新にかかる時間や写真を掲載する場合のデータ量の制限等の制約はどのような事があるのか。
- (5)他の自治体でも導入されるところが増えているフェイスブックやツイッターのようなソーシャルネットワークサービスを、情報発信のツールとして新たに導入する考えはないか。

6 月 8 日

10 人目

15 番

**水 野 義 裕**  
(60 分)

- 1. 企業跡地に太陽光発電所を**
- (1)市税への影響額は、どれほどか。
- (2)利用されなくなる跡地の面積は、どれほどか。
- (3)跡地開発の方向性は、今後のまちづくりに対し大きな影響を及ぼすが、現時点での市の考え方を伺う。
- (4)太陽光発電所建設に向けて、企業誘致を促進してはどうか。
- 2. 図書館の充実について**
- (1)図書館予算の減額が指摘されているが、どのように改善していくか。
- (2)正規職員の司書有資格者の比率を 70%まで高めるよう指摘されているが、比率は高まったか。
- (3)雑誌の種類を 300 誌まで増やすよう指摘されているが、増加したか。
- (4)児童サービスを補強するよう指摘されているが、補強できたか。
- (5)YA コーナーの充実はどのように進められているか。
- 3. 食品の放射性物質測定への対応強化を**
- (1)あきる野市では学校、保育園、幼稚園の給食の放射性物質測定を実施し、ホームページで公表している。羽村市も測定を実施すべきではないか。
- (2)放射性物質を心配する保護者が弁当を持参させたり、牛乳を飲ませないとの事例が各地で見られるが、羽村市ではどうか。
- (3)農産物直売所で、市内農産物の測定結果を公表してほしいとの声がある。あきる野市では、ファーマーズセンターの農産物の測定結果をホームページで公表している。JA 西多摩と連携し、日常的に公表できるようにしてはどうか。
- (4)消費者庁は放射性物質検査機器の貸し出しをしているが、貸出申請をしたか。

6 月 11 日

- ②今後どう取り組んでいくか、具体的な計画があれば何う。
  - ③国や都の動きを待っているのではなく、自律的に取り組む姿勢が必要だと考えるがどうか。そういった自治体を支援するシステムがあり、すでに導入している自治体があると聞くが把握しているか。
  - ④新公会計制度の基盤となる固定資産台帳の整備はどこまで進んでいるか。
- (2) 予算の説明について
- 予算の根拠となる様々な数字をまとめた、予算説明書を作り、市民に予算をわかりやすくするとともに、議会での審査の充実に役立てることが必要だと考えるがいかがか。
- (3) 財政白書などには、市民一人当たりの指標を近隣や同規模自治体などと比較した情報を掲載し、理解を深めるように工夫してどうか。

## 2. 危機管理について

### (1) 危機管理について

- ①今後の事業継続計画（BCP）の策定予定は。
- ②近隣自治体との協力関係をどう考えているか。
- ③流通業者などとの連携による備蓄を検討してはどうか。
- ④危機管理の人材を育成すべきではないか。
- ⑤事前準備として、シミュレーション訓練・ブレンスストーミングなどを実施してはどうか。

### (2) 危機管理課について

- ①今年度の危機管理課の担当事務事業はどんなものか。
- ②それらの作業計画はどうなっているか。
- ③担当部門を設置すると、そこに任せ切りになってしまいがちだが、関係部門との役割分担など、それを回避する方策をどう考えているのか。

## 3. 窓口サービスのこれから

### (1) 土日開庁について

- ①多摩地区で休日開庁の実態はどうなっているか。（土日・土のみ・日のみ・その他の方式・未実施）
- ②出張所の開庁時間が短縮されたが、市民からどのような声があるか。
- ③土日のどちらかのみ開庁にした場合、どのような問題があるか。
- ④両日開庁と、どちらかのみ開庁のコストはそれぞれいくらか。また、対応している正職員と臨時職員の日あたりの人数は。
- ⑤どちらかのみ開庁にしては、と考えるがいかがか。

11 人目

11 番

馳 平 耕 三  
(60 分)

(2) 窓口サービスについて

- ① 接遇マニュアルは改訂されているか。
- ② 接遇マニュアルは、職員へどのように徹底しているか。
- ③ 事情はあると思うが、マスクをつけている職員が対応することについてどのように指導しているか。
- ④ 一つの手続きのために、市民が何度も来庁していただくケースがどれくらいあるか。そのようなケースの改善策は検討されているか。
- ⑤ 接遇マニュアルには「受付処理票」が例示されているが、運用されているか。されているとしたら、昨年度何件あったか。それらの情報は共有されているか。
- ⑥ 窓口の一本化、いわゆるワンストップサービスについては、庁舎の構造上難しいということだったが、具体的にはどんな点か。また、市民からの要望は無いか。

1. 生活保護費の急増にどう対応するか

- (1) 厚生労働省では、2025 年には、生活保護費が現状から 40% 増えると予想しているが、羽村市でも同じくらい増えると予測されるか。また、仮に 40% 増えた場合、羽村市の負担はいくら増えると試算されるか。
- (2) 羽村市の場合、生活保護費に占める医療費の割合は何%か。また、この数値が極端に高い原因をどう分析しているか。
- (3) 70 歳単身世帯の場合、国民年金と生活保護受給月額、どちらがいくらぐらい高いか。
- (4) 30 歳単身で、最低賃金で 5 日間 8 時間働いた場合、最低賃金で働いた人の賃金と生活保護費受給月額は、どちらがいくらぐらい高いか。
- (5) 羽村市で生活保護を受けている外国人は、市に在住する外国人の何%ぐらいを占めるか。
- (6) 現在、羽村市で、無年金者の中で生活保護を受けている人の比率は何%か。また、今後無年金者は、10 年後、20 年後、現状からどのくらい増えると予測されるか。
- (7) 羽村市で、生活保護費の不正受給は、過去 5 年間で何件あったか。
- (8) 生活保護費の極端な増加を防ぐためには、無年金者の増加を抑える、自立支援の強化、不正受給の防止などがあげられるが、羽村市では、どのような具体策を考えているか。
- (9) 生活保護費の給付水準を下げる、医療費の一部自己負担、住宅や食事の現物支給なども国会では検討されはじめているが、憲法 25 条の理念や

6 月 11 日

12 人目

9 番

山 崎 陽 一  
(60 分)

羽村市の財政状況に照らして、こうした検討事項について羽村市は現在どのように考えているか。

## 2. 学校評議員制度の活用は十分か

- (1) 羽村市では、各学校で学校評議員会を年に何回開催し、1 回の会議には平均してどのくらいの時間をかけているか。
- (2) 評議員の人選・意見聴収は誰が行うか。
- (3) 学校評議員会は、羽村市ではどのような目的で設置したか。
- (4) (3)の目的に照らして、十分制度が活用されていると考えているか。
- (5) 学校評議員会は教職員や保護者、地域住民が傍聴できるか。また、その議事録は公開されているか。
- (6) 説明責任という観点から、評議委員会の声をどう保護者や地域住民に伝え、それをどう生かそうと考えているか。
- (7) 地域住民から有益な意見を引き出すための工夫や、専門的な課題について勉強会を設置する学校評議員会が増えてきている。今後、羽村市でもさらに工夫する考えはないか。

## 1. 区画整理撤回要求 第 21 弾

- (1) 平成 24 年度～26 年度の事業予定を質す。
  - ① 6 月現在の作業状況を聞く。
  - ② 2 次換地設計（案）に反対の、404 人の署名への認識と対応を再度聞く。
  - ③ 意見書提出者への返答時期と方法を聞く。
  - ④ 2 次換地設計（案）決定通知は「出来るだけわかりやすい資料を送付する」という。権利者が必要とするものを出す用意はあるか。
  - ⑤ 井戸、井戸跡、墓地跡の位置関係図書を開示するとのことだが、重ね図を求める。
  - ⑥ 建物移転 5 棟が予定されているが、どこか。仮換地指定か。
  - ⑦ 都道 3・4・12 号線暫定工事に住民不安が大きい。どんな計画か。
  - ⑧ 暫定工事との言葉が使われるが、法的にはどのような位置づけか。
  - ⑨ エリア分けして工事、というのがその優先付け基準は何か。
- (2) ウッドチップ歩道実験の無駄遣いを質す。
  - ① 1,400 万円を投じた先導的都市環境形成計画のアンケートでウッドチップ歩道の要望があったのか。
  - ② 実証実験の目的と方法を聞く。
  - ③ 費用と内訳を聞く。
  - ④ 結果はどのようなものか。

6 月 11 日

13 人目

1 番

倉 田 学  
(60 分)

- ⑤木屑の道路をいつ、どこに造るのか。
- (3) 情報公開の消極性を改めよ。
- ①区画整理審議会議事録の開示に関し「審査会の答申を最大限尊重する」の答弁があった。実行されているか。
- ②2期7回以降16回分の議事録開示請求に対し、8ヶ月の延長通知がきた。1ヶ月に2回分しか開示できないのは、市長答弁に反していないか。
- ③2期27回以降の議事録は作成中で不存在とされたが、現在出来ているか。出来ているなら開示すべきではないか。
- ④公正・公平な審議が行われたか、地権者として確認のために議事録が必要だ。開示される前に2次換地設計(案)の決定をすべきではないと思うが、どうか。

## 1. 高齢者の健康と生活を守る対策を

- (1) 日常生活に支障のある高齢者を対象とした補聴器購入費助成制度を実施すべきではないか。
- (2) 賃貸住宅で暮らす高齢者世帯について
- ①羽村市内の一人暮らしの老年人口はどれくらいか。
- ②民間アパートを借り上げる高齢者住宅を増やすべきではないか。
- ③高齢者世帯を対象とした高齢者家賃助成サービスの実施が必要ではないか。
- (3) 糖尿病予防の取り組みについて
- ①糖尿病の正しい知識、食生活、口腔ケア、運動について学ぶ糖尿病予防教室を実施してはどうか。
- ②祭り等のイベント会場で指先の簡易血糖測定と結果説明や糖尿病予防啓発コーナーを設けて糖尿病予防キャンペーンを実施してはどうか。
- (4) 小規模多機能型居宅介護について
- ①現段階で事業者の参入はどれくらいになる見込みか。
- ②今後参入を促すためにどのような取り組みを行うか。
- (5) 神戸市に設けられている「高齢者施設介護士認定制度」を創設してはどうか。

## 2. 羽村駅西口区画整理事業について

- (1) 土地の減歩や清算金を徴収する事は住民の暮らしの圧迫につながるのではないか。
- (2) 羽村市民全世帯向けに事業費、図面、年間に必要とする経費等を含めた計画の全容がわかる広報を配布し全市民に周知すべきではないか。

6月11日

14 人目

5 番

鈴木拓也  
(60 分)

- (3) 404 人の地権者から第二次換地案に対し反対署名が提出されているが、市民のための事業として住民との共同で土地区画整理事業を見直すべきではないか。
- (4) 都道 3・4・12 号線を土地区画整理事業の一環としてではなく東京都の補助金のみで整備する事は法的に可能か。
- (5) 現在行われている個別説明について
  - ① 地権者への説明はどのくらい進んでいるか。
  - ② 地権者全体のうち何人の合意が得られ、何人が反対の意思表示をしているか。
- (6) 地権住民の合意が得られるまで、土地区画整理事業を中止すべきではないか。

### 3. 奥多摩街道の安全対策について

- (1) 羽村堰入口周辺から玉川水神社前の交差点までの道路の拡幅について
  - ① 奥多摩街道の拡幅工事はいつ頃の完了になる見通しか。
  - ② 奥多摩街道の拡幅工事が完了するまでの間、監視員を配備し、堰の第一水門の上を歩行者が歩けるよう東京都に働きかけるべきではないか。
  - ③ 羽村南郵便局から道路を渡った場所にある階段までに、横断歩道を設置すべきではないか。

### 1. 市民にわかりやすい印刷物を

- (1) 印刷物について、市民からはどんな声が寄せられているか。
- (2) 市民に分かりやすい印刷物にするため、市はどのような考えを持っているか。また、どのような工夫をしているか。
- (3) より分かりやすい印刷物にするために以下の工夫が必要と考えるが、どうか。
  - ① 極力、単色印刷ではなく、カラーを上手に生かした印刷を行うべきではないか。
  - ② 専門用語をそのまま使うのは、極力ひかえるべきではないか。
  - ③ グラフィックによる説明を効果的に用いることが必要ではないか。
  - ④ 具体的に記述することを心がけるべきではないか。

### 2. 環境都市はむらを目指そう

- (1) 環境基本計画について
  - ① 新たな計画は、どのような特徴を持つのか。作成スケジュールはどうなっているか。
  - ② 新たな計画には、「脱原発・自然エネルギーへの代替」の視点が重要になると考えるがどうか。

6 月 11 日

(2)脱原発「首長会議」について市長はどういう考えを持っているか。

(3)自然エネルギー普及・省エネルギー推進策について

①省エネ・エコポイント制度への申し込み状況はどうか。

②長野県飯田市で行っている太陽光ゼロ円システム、滋賀県野洲市で行っているエコSUN山プロジェクトのような、自然エネルギー普及を市民団体とともに進める事業を羽村市でも実施できないか。

③大学との連携の中で、自然エネルギー普及、省エネルギーについては検討されているか。

④羽村堰に小水力発電所を設置できないか。

⑤今夏、家庭の省エネを目的に、地域会館を「涼み所」として開放してはどうか。

(4)多摩川を生かした環境学習活動を

①羽村市動物公園運営者が提案していた淡水水族館は、どう具体化される計画か。

②多摩川に市民がより親しむことを目的に「いかだ下り大会」などを企画してはどうか。

### 3. 学校教育制度について

(1)少人数学級について

①40人を下回る学級編成が実施され、その効果はどうあらわれているか。

②さらに少人数学級を推進することが必要と考えるが、市の考えはどうか。具体的な行動、検討はなされているか。

(2)二学期制について

①学校アンケートの設問から二学期制についての問いがなくなったが何故か。

②高松市、横浜市などで、二学期制から三学期制へ戻す動きが起こっているが、これらについてどう考えているか。